



1 触診が有用でないのはどれか。

- a 肝腫大
- b 心尖拍動
- c 筋性防御
- d 肺肝境界
- e 甲状腺腫

2 聴診で吸気時のみに低いブツブツという音を聴取する。

考えられるのはどれか。

- a 胸膜摩擦
- b 上気道狭窄
- c 気管支狭窄
- d 上気道液体貯留
- e 下気道液体貯留

3 組合せで誤っているのはどれか。

- a 嘔 声 ————— 反回神経麻痺
- b 喀 血 ————— 肺アスペルギルス症
- c 喘 鳴 ————— 間質性肺炎
- d 呼吸困難 ————— 低酸素血症
- e 顔面浮腫 ————— 上大静脈閉塞

- 4 鼻出血の頻度が最も高いのはどれか。
- a 鼻前庭
  - b 鼻中隔
  - c 上鼻甲介
  - d 中鼻甲介
  - e 下鼻甲介
- 5 食事療法において、関心はあるが現実の行動が変容していない患者に対するアプローチとして最も適切なのはどれか。
- a 頑張るように促す。
  - b 食事の問題点を指摘する。
  - c 家族のサポートを強化する。
  - d 食事療法についての考えを聞く。
  - e 食事療法の重要性を繰り返し説明する。
- 6 高血圧の患者を診察中「私は血圧が高いほど調子がいいのです」という発言がみられた。
- 対応として最も適切なのはどれか。
- a 別の話題に変える。
  - b 患者の発言を否定する。
  - c 通院を継続するかを確認する。
  - d 高血圧の合併症について説明する。
  - e 発言の根拠となる情報を聴取する。

7 医療面接中に腕時計に目をやるという医師の無意識の動作を、患者は「会話を切り上げたい気持ちの表れ」と受け止めた。

この状況の解釈として最も適切なのはどれか。

- a コミュニケーションは意図と関係なく起こる。
- b 患者は医師の意図とは反対に反応する傾向がある。
- c 医療面接中は患者の目から視線を離さない方がよい。
- d 医師は無意識の動作に対する患者の反応に責任はない。
- e 医療面接では非言語的コミュニケーションは避ける方がよい。

8 難聴のある人が、検査時の指示が聞き取りにくいいため上部消化管造影による胃がん検診を受けていない。

検診を受けていないこの状態はどれか。

- a 機能障害
- b 能力低下
- c QOL〈quality of life〉低下
- d 参加制約(社会的不利)
- e バリアフリー化不備

9 腹部診察で誤っているのはどれか。

- a 視診で腹部の膨隆は腹水を疑う。
- b 聴診で金属性雑音は腸管通過障害を疑う。
- c 打診で鼓音部はガスが充満している。
- d 触診は疼痛部から始める。
- e 触診で反跳痛は腹膜刺激症状である。

- 10 7 か月乳児の発達評価に有用なのはどれか。
- a 深部反射
  - b 病的反射
  - c 表在反射
  - d 原始反射
  - e 姿勢反射
- 11 胎児循環で酸素分圧が最も高いのはどれか。
- a 右心室
  - b 動脈管
  - c 上行大動脈
  - d 下行大動脈
  - e Arantius 静脈管
- 12 植物状態患者の生命維持に最低限必要なのはどれか。
- a 酸素投与
  - b 栄養管理
  - c 昇圧薬投与
  - d 抗菌薬投与
  - e 人工呼吸器管理

13 アルコール依存症のスクリーニングの質問として有効でないのはどれか。

- a 「朝一番に飲酒をすることがありますか」
- b 「アルコール度数の高いお酒が好きですか」
- c 「飲酒に対して罪悪感を持ったことがありますか」
- d 「他人から飲酒に対して注意されたことがありますか」
- e 「飲酒を控えなければならぬと感じたことがありますか」

14 我が国の国民医療費で正しいのはどれか。

- a 年間 50 兆円を超える。
- b 国民健康保険で給付される。
- c 介護保険の費用も含まれる。
- d 公費負担は 50 % 以下である。
- e 対 GDP 比は OECD 諸国の中で上位にある。

15 妄想が出現するのはどれか。

- a 失 神
- b 食思不振
- c てんかん
- d 感覚障害
- e 睡眠時無呼吸症候群

- 16 発症要因として生活上の出来事の関与が最も大きいのはどれか。
- a 双極性障害
  - b 統合失調症
  - c パニック障害
  - d ストレス関連障害
  - e アルコール依存症
- 17 抑うつ状態や引きこもりにならないような定年後の生活設計を考えて、在職時から心がけておくといのはどれか。
- a 職場の後継者づくり
  - b 近所付き合いや仲間づくり
  - c ストレスになる仕事の回避
  - d 管理業務のマニュアル整備
  - e 定年まで限られた期間をさらに仕事に励むこと
- 18 反射の診察において、ハンマーの叩打部位(別冊No. 1)を別に示す。  
上腕二頭筋反射の誘発に適切な部位はどれか。
- a ①
  - b ②
  - c ③
  - d ④
  - e ⑤

別 冊 No. 1
--------------

19 院内感染のリスクが最も高いのはどれか。

- a 出血時間検査
- b 末梢静脈からの採血
- c 末梢静脈での点滴針留置
- d 中心静脈栄養カテーテル留置
- e 血液ガス分析のための動脈穿刺

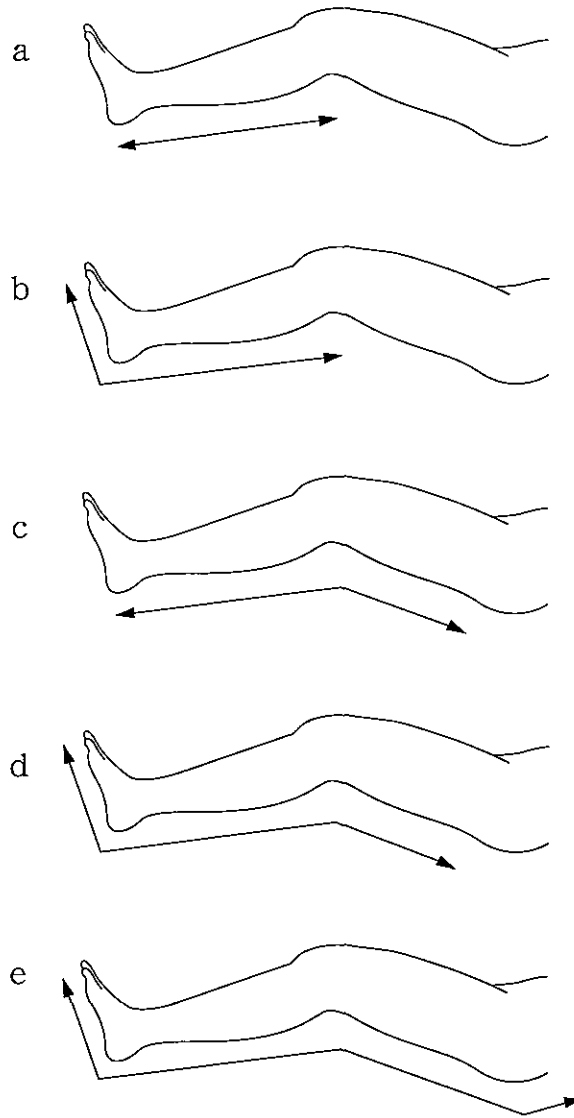
20 組合せで誤っているのはどれか。

- a 末梢の ——— peripheral
- b 近位の ——— distal
- c 前方の ——— anterior
- d 上方の ——— superior
- e 側方の ——— lateral



21 28歳の男性。スキーで転倒し、右下肢痛を生じたため搬入された。右下肢の  
エックス線写真(別冊No. 2A、B)を別に示す。

副子による固定範囲として適切なのはどれか。



別冊  
No. 2 A、B

22 29歳の女性。妊娠34週時に転居のため紹介され来院した。体温36.7℃。脈拍104/分、整。血圧148/94 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球366万、Hb 11.3 g/dl、Ht 35%、白血球10,800、血小板19万。血液生化学所見：血糖104 mg/dl、HbA<sub>1c</sub> 5.2%、総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.8 g/dl、尿素窒素16.6 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、総ビリルビン0.9 mg/dl、直接ビリルビン0.2 mg/dl、AST 30 IU/l、ALT 32 IU/l、LD (LDH) 288 IU/l(基準176~353)、ALP 386 IU/l(基準115~359)、Na 143 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 106 mEq/l。

経過観察で注意するのはどれか。

- a 脈拍
- b 血圧
- c 赤血球数
- d 白血球数
- e ALP値

23 40歳の女性。意識障害のため搬入された。3年前、第2子出産時に大量の出血があった。その後から無月経となり、2年前から陰毛が脱落してきた。1か月前から全身倦怠感を訴えていた。今朝、寝室から起きて来ないので、家族が見に行くと意識がもうろうとしていて呼びかけに反応がなかった。意識レベルはJCS II-30。体温35.5℃。脈拍56/分、整。血圧100/54 mmHg。血液生化学所見：血糖61 mg/dl、Na 126 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 92 mEq/l。

静脈路確保の後、静脈内投与すべきなのはどれか。

- a アトロピン
- b 甲状腺ホルモン薬
- c 女性ホルモン薬
- d ドパミン
- e 副腎皮質ステロイド

24 32歳の女性。咽頭痛と発熱とを主訴に来院した。2日前から咽頭痛が出現し、本日朝には発熱も加わった。

抗菌薬投与を考えるのはどれか。

	咳	鼻汁	体温(°C)	扁桃腫大/白苔	リンパ節腫脹
a	-	-	38.6	+/-	+ (全身)
b	-	-	38.6	+/+	+ (頸部)
c	+	+	37.4	-/-	+ (頸部)
d	+	+	38.6	-/-	-
e	+	-	37.4	-/-	-

25 45歳の男性。頭痛を主訴に来院した。初診時の医師と患者との会話を以下に示す。

医師 「いかがなさいましたか」

患者 「ひどい頭痛が3週前に始まりまして。だんだん悪くなっています」

医師 「悪くなったのですね」

患者 「はい。今はもう耐え難いくらいです。夜中の2時に痛みで目が覚め、だんだんひどくなって、責めさいなまれるようになります。自分ではそれから1時間も続くように思えますが、30分間くらいかもしれません。痛みは少しずつおさまって、また眠ることができるようになります」

医師 「毎晩ですか」

患者 「そう、毎晩です。痛みはとてもひどくて、誰かが頭に錐で穴を開けているような感じです。いつも右側で、特に目の後ろが強い感じです」

医師 「右目の後ろですね」

患者 「そうです。こんな痛みはこれまで経験したことがありません。以前は右の頭痛がありましたが、その時はこれほどではありませんでした。またこんなに長くは続きませんでした。痛みが起きると、横になっていたいと思っても、起きて歩き回らなければならなくなります」

医師 「歩き回ると楽になりますか」

患者 「ええ、ほんの少しですが。痛みを軽くするのはそれだけなのです」

用いられているコミュニケーションスキルはどれか。

- a 閉鎖型質問
- b 中立的質問
- c 焦点を絞った質問
- d 繰り返し
- e 共感

26 67歳の男性。1時間前からの胸痛を主訴に来院した。意識は清明。呼吸数24/分。脈拍112/分、整。血圧104/68 mmHg。心電図胸部誘導ではV<sub>2</sub>からV<sub>6</sub>にST上昇、心エコー検査では前壁の壁運動低下、血液検査ではトロポニンTの高値を認めた。診療開始45分後に心室細動となり、二次救命処置を施行したが心拍は再開せず、家族の前で死亡を確認した。

次に行うのはどれか。

- a 死亡診断書の作成
- b 死体検案書の作成
- c 警察署への届出
- d 裁判所への届出
- e 保健所への届出

27 48歳の男性。日中の眠気、集中力減退および倦怠感を主訴に来院した。いびきを妻から指摘されている。

まず行うのはどれか。

- a 胸部CT
- b 頭部MRI
- c 気管支鏡検査
- d 心臓カテーテル検査
- e ポリソムノグラフィ

28 70歳の男性。頭痛を主訴に来院した。2か月前に飲酒後転倒し前頭部を打撲した。2週前から頭痛があり、左手足の脱力が徐々に進行している。意識は清明。軽度の左不全片麻痺を認める。頭部単純CT(別冊No. 3)を別に示す。

処置として適切なのはどれか。

- a 穿頭ドレナージ
- b 脳室ドレナージ
- c 脳槽ドレナージ
- d 膿瘍ドレナージ
- e 腰椎ドレナージ

別 冊

No. 3

29 46歳の男性。黒色便と倦怠感を主訴に来院した。3日前に腹部不快感が出現しタール状の黒色便を排泄した。昨夜も黒色便を排泄し倦怠感も出現した。意識は清明。体温 36.7℃。脈拍 108/分、整。血圧 90/70 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦、軟。血液検体を採取後、静脈路を確保し輸液を開始した。

まず行うのはどれか。

- a 腹部超音波検査
- b 小腸造影
- c 腹部単純 CT
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 下部消化管内視鏡検査

30 31歳の女性。8か月間の無月経を主訴に来院した。1年前から不眠、気分の落ち込みと不安感のため、向精神薬を処方されている。身長158 cm、体重54 kg。内診で子宮は鶏卵大で可動性は良好である。経膈超音波検査で子宮と卵巣とに異常を認めない。

無月経の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 妊 娠
- b 体重減少
- c 早発閉経
- d 高プロラクチン血症
- e 多嚢胞性卵巣症候群



次の文を読み、31、32の問いに答えよ。

76歳の女性。頭痛、嘔気および嘔吐を訴え、起き上がれないため搬入された。

**現病歴** : 定時に起床しないため家族が訪室したところ、「つらくて起きられない」と訴えた。昨夜は通常通り就寝した。

**既往歴** : 30歳から高血圧の治療を受けている。

**生活歴・家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識は清明。身長150 cm、体重38 kg。体温35.7℃。脈拍120/分、整。血圧86/64 mmHg。眼瞼結膜に異常を認めない。顔色は不良で、苦悶顔貌。目を閉じて側臥位をとっている。開眼で嘔気が増強する。前胸部で皮膚ツルゴールが低下し、口腔内は乾燥している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨隆し、臍周囲に圧痛がある。打診では鼓音を認める。

31 初期対応として適切なのはどれか。

- a 輸 液
- b 輸 血
- c 抗菌薬投与
- d 利尿薬投与
- e 消炎鎮痛薬投与

32 初期の検査で適切でないのはどれか。

- a 心電図
- b 頭部 MRI
- c 胸部エックス線撮影
- d 腹部エックス線撮影
- e 上部消化管内視鏡検査

次の文を読み、33、34の問いに答えよ。

1歳1か月の男児。嘔吐と発熱とを主訴に来院した。

**現病歴** : 2日前の夕方から嘔吐が出現した。昨日、発熱し、嘔吐が頻回になったため近医を受診した。制吐薬を処方されたが服用できず、白色下痢も加わった。水分摂取もできなくなった。

**既往歴・家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識は清明だがぐったりしている。身長72 cm、体重10.3 kg(1週前の1歳児健康診査では11.0 kg)。体温39.2℃。呼吸数26/分。脈拍140/分、整。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は軟で、肝・脾を触知しない。尿所見：比重1.025、蛋白(-)、糖(-)、ケトン体3+。血液所見：赤血球450万、Hb12.3 g/dl、Ht40%、白血球14,900(桿状核好中球11%、分葉核好中球62%、単球3%、リンパ球24%)、血小板49万。血液生化学所見：血糖88 mg/dl、総蛋白6.6 g/dl、尿素窒素15 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、尿酸6.9 mg/dl、総ビリルビン0.4 mg/dl、AST66 IU/l、ALT31 IU/l、LD(LDH)630 IU/l(基準260~530)、Na133 mEq/l、K4.4 mEq/l、Cl90 mEq/l。CRP1.3 mg/dl。

33 認められるのはどれか。

- a 浮腫
- b 口囲蒼白
- c 大泉門膨隆
- d 口腔粘膜乾燥
- e 口唇チアノーゼ

34 病原体として考えられるのはどれか。

- a ロタウイルス
- b エコーウイルス
- c ライノウイルス
- d コクサッキーウイルス
- e サイトメガロウイルス

次の文を読み、35、36の問いに答えよ。

60歳の男性。黒色便を主訴に来院した。

**現病歴** : 以前からC型肝炎ウイルス抗体が陽性であることを指摘されていたが放置していた。最近、飲酒量が増加した。昨日から全身倦怠感があり、タール状の黒色便を排泄した。

**既往歴** : 28歳時、交通事故で輸血を受けた。

**現症** : 意識は清明。身長160 cm、体重52 kg。体温37.0℃。脈拍96/分、整。血圧112/70 mmHg。

**検査所見** : 血液所見：赤血球325万、Hb 9.4 g/dl、Ht 32%、白血球8,200、血小板6.3万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、尿素窒素12 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、総コレステロール196 mg/dl、総ビリルビン1.8 mg/dl、AST 66 IU/l、ALT 48 IU/l、LD (LDH) 496 IU/l (基準176~353)、ALP 252 IU/l (基準115~359)。CRP 0.3 mg/dl。食道内視鏡写真(別冊No. 4)を別に示す。

別冊

No. 4

35 身体所見で認められるのはどれか。

- a 鼓腸
- b 血管雑音
- c 筋性防御
- d 腸雑音亢進
- e くも状血管腫

36 機能検査として有用なのはどれか。

- a 食道内圧検査
- b pH モニタリング
- c 胃液検査
- d ICG 試験
- e BT-PABA 試験

次の文を読み、37、38の問いに答えよ。

57歳の男性。発作性の喘鳴を主訴に来院した。

**現病歴** : 1週間前から微熱、咳、痰および発作性の喘鳴が出現し、市販の感冒薬を服用したが改善せず、呼吸困難が増強した。

**既往歴** : 2年前から降圧薬を服用している。喫煙歴はない。

**現症** : 意識は清明。体温 37.0℃。脈拍 92/分、整。心音と呼吸音とに異常を認めない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球 441 万、Hb 15.0 g/dl、Ht 45 %、白血球 10,200、血小板 18 万。血液生化学所見に異常を認めない。免疫学所見：CRP 1.2 mg/dl。ツベルクリン反応陽性。胸部エックス線写真(別冊No. 5A)と喀痰の May-Giemsa 染色標本(別冊No. 5B)とを別に示す。

別冊 No. 5 A、B
-----------------

37 喀痰検査で見られる特徴的な細胞はどれか。

- a 好中球
- b 好酸球
- c 好塩基球
- d 単球
- e マスト細胞

38 吸入療法を開始したが十分な改善が得られなかったため、経口薬を追加投与することとした。

この経口薬を長期間投与した場合の合併症で頻度が低いのはどれか。

- a 白内障
- b 肺炎
- c 糖尿病
- d 骨粗鬆症
- e ネフローゼ症候群